

報道関係者 各位

2020年8月18日
国立成育医療研究センター

「コロナ×こどもアンケート」第2回調査報告

32%のこどもが、コロナになったら人に知られたくないと回答
夏休み明けは感染者への差別やいじめにも注意が必要

国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵 2-10-1 理事長：五十嵐隆）の社会医学研究部・こころの診療部を中心としたグループ「コロナ×こども本部」は2020年6月～7月に実施した「コロナ×こどもアンケート」第2回調査の全体報告をまとめました。第2回調査では、特に学校再開後のこどもたちのコロナ禍におけるいじめなどにも着目して質問を構成し、全国のこどもや保護者あわせて6,772名にご協力いただきました。

32%のこどもは「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたい」と回答し、また40%のこどもが「コロナになった人とは、コロナが治っても、あまり一緒には遊びたくない人が多いだろう（付き合うのをためらう人が多いだろう）」と答えました。これは、感染が終息していない中での学校や社会生活の再開に伴い、こどもたちの誰もがスティグマ*の問題を避けて通れないことを意味していると考えられます。

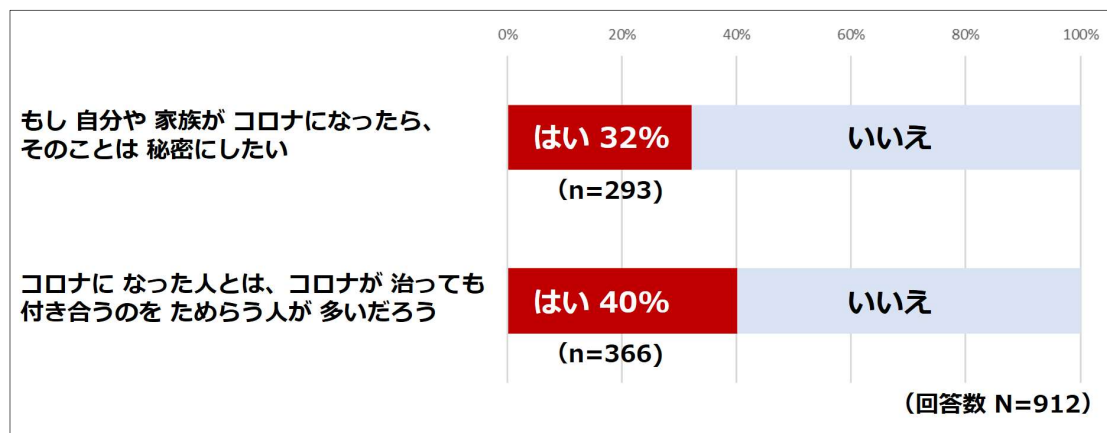
また、「コロナのことを考えると嫌になる」や「最近集中できない」といった、何らかのストレス反応を示すこどもは72%で、4月～5月に行った第1回調査からあまり改善が見られませんでした。

例年8月下旬～9月上旬に子どもの自殺が多く、夏休み明けを迎える子どもの心への負担が指摘されていますが、今年は特に注意をはらう必要があります。

なお、第2回調査の報告書全文は、国立成育医療研究センター「コロナ×こども本部」のページで公開しています。

(https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/survey.html#3tab)

※スティグマ：差別・偏見の対象となるような良くない印を、他者や社会が個人につけること。



【第2回調査報告書より抜粋（こどもの回答）】

【プレスリリースのポイント】

- ・ コロナ×こどもアンケート第2回調査には、全国のこども 981 名、保護者 5,791 名、計 6,772 名の方々にご協力いただきました。
- ・ 「もし自分や家族がコロナになったら、そのことは秘密にしたい」という項目について、32%のこどもがあてはまると回答しました。
- ・ 「コロナになった人とは、コロナが治っても、あまり一緒には遊びたくない人が多いだろう（付き合うのをためらう人が多いだろう）」という項目については、40%のこどもがあてはまると回答しました。
- ・ 何らかのストレス反応を呈しているこどもが 72%（第1回調査では 75%）。また、こころに何らかの負担を感じている保護者が 63%（第1回調査では 62%）で、第1回調査から大きな改善は見られませんでした。
- ・ 第3回調査「コロナ×こどもアンケートその3」を9月1日より実施します。

【背景】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにより、こどもたちの生活も大きく変わりました。おとなと比べて声をあげることが難しいこどもたちが、いまどのような状況に置かれているのか、おとなたちはこどもたちのために何ができるのか、を明らかにし、現場に届けるとともに、社会に問いかけるための調査です。

前回の調査では、主に緊急事態宣言中のこどもたちの生活や健康の様子が明らかになりました。今回の調査では、学校や保育園が再開されてからのこどもたちの様子や、新型コロナに関する意識（スティグマ）などに着目して調査を行いました。

【今後の展望】

一度は終息するかのように見えた新型コロナですが、再び全国で猛威を奮っています。第2回調査は感染が比較的落ち着いていた時期に実施されましたが、それでもこどもたちは新しい生活の中で大きな影響を受けていました。また、コロナに関するスティグマがこどもたちの間にも少なからず存在することがわかりました。この状況が長期化すると、こどもたちの心への影響もさらに心配です。

2020年9月1日より、第3回調査「コロナ×こどもアンケートその3」を開始予定です。今後も各調査結果や社会情勢などを踏まえて、繰り返し調査を実施していく予定です。また、重大な調査結果は速やかに公開し、現場でのこどもたちへのケアや施策提言に活かしていただけるよう努めます。

【参考資料】

<調査の特徴>

- ・新型コロナウイルス感染症流行期における、こどもたちと保護者のストレスや不安、生活環境の変化、それに伴う心身の健康状態の現状を明らかにし、問題の早期発見や予防・対策に役立てることを目的としています。
- ・こども自身の声を聞くことで、こどもたちが感じていること、こどもが抱える問題、その改善点を社会に発信していきます。また、こどもの心身の健康には、保護者の心身の健康が密接に関係しているため、こども・保護者双方の声を聞くことを重視して、調査を行っています。
- ・調査に協力して下さるお子さまや保護者の方ご自身が、自分や家族の心身の問題を早期発見することに繋げていただけるようにという点にも留意して調査を設計しています。
- ・調査は、1～2 カ月ごとに1年間程度繰り返し行い、その都度、調査結果を公開していくことを予定しています。第1回調査では、その調査結果の重大性を考慮し、一般向け、教育機関向け、保育機関向けの中間報告結果を、各対象者に向けた専門家からのアドバイスを含めた形で、公表しました。
- ・LINE 公式アカウント「コロナ×こども本部」では、調査協力依頼や結果のお知らせのほかに、こどもたちやそのご家族に今日から役立てていただける情報を、専門家がセレクトして随時発信しています。

<調査の方法>

- ・対象は、① 7～17歳のこども、および、② 17歳以下のこどもがいる保護者、です。
- ・当センターのホームページ内に本調査ホームページを開設し、調査目的・説明などを掲載するとともに質問項目のフォームを作成しています。回答は匿名で、説明・同意（代諾を含む）・回答はすべてオンライン上で行われます。
- ・調査への参加呼びかけは、若年層を中心に利用者割合が高いLINE や SNS (Facebook、Twitter) を積極的に活用して行っています。HP 記載の協力団体にも参加呼びかけにご協力いただきました。また、メディアにも紹介いただき、さまざまな媒体を通じて、多くの地域、多様な社会背景をもつ幅広い参加者から回答を得ることで、実態を正しく把握したいと考えています。調査の特性上、回答率は計算できません。
- ・第2回調査は、2020年6月15日～7月26日に実施しました。LINE「コロナ×こども本部」、Facebook（国立成育医療研究センター 広報アカウント）と twitter（国立成育医療研究センター 広報アカウント）のほか、協力団体、メディアを通して参加を呼びかけました。
- ・第2回の調査実施期間は、休校・休園していた多くの学校や幼稚園・保育園が再開されて間もない時期であり、主に都市部では再度徐々に感染者数が増えはじめた時期でもあります。この間のこどもたちの健康状態やQOL（生活の質）、急性ストレス症状、家族とのかかわりやトラブル、保護者のこころの状態、ヘルスリテラシー、スティグマ、いじめ、こどもたちが大人に言いたいことなどを、基本属性とあわせて聞きました。回答は、こどものみ、保護者のみ、その両方、から選べる形式にしました。
- ・第2回調査は、科学技術振興機構 新型コロナウイルス感染症関連国際緊急共同研究・調査支援プログラム J-RAPID「新型コロナウイルス流行期におけるこどもの健康・生活に関する全国調査（コロナ×こどもアンケート）」（代表：森崎菜穂）として実施されました。

<本件に関する連絡先>

国立研究開発法人国立成育医療研究センター

広報企画室 村上・近藤

電話：03-3416-0181（代表）Email：koho@ncchd.go.jp